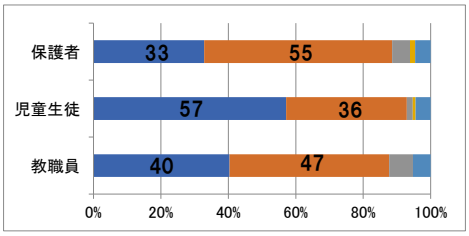
令和７年度　学　校　評　価

そう思う　どちらかといえば、そう思う　どちらかといえば、そう思わない　そう思わない　からない

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

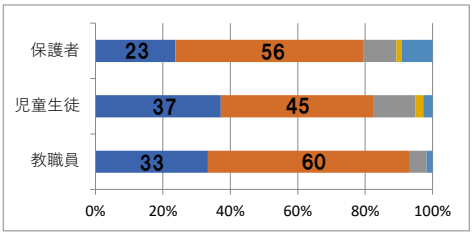
１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に努めていると思いますか。（感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にする心、こどもの体力向上、基本的な生活習慣など）



２自ら学びに向かう力を育む教育の推進

学校は、こどもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。



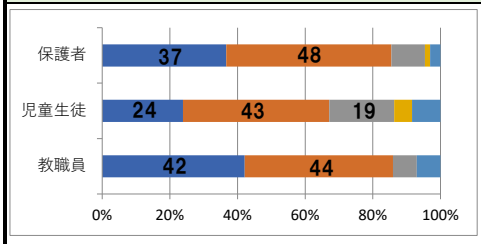
考察

○「１豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」
「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」は保護者・生徒ともに８割強以上。日常的に取り組んでいる道徳教育（授業）をはじめ、人権教育の視点から定期的な人権学習の充実を図りながら心の教育を行い、体育や部活動のさらなる充実を図る。また、毎年実施の校則見直しをもとに服装や身だしなみの徹底、挨拶等を通した心を育てる取り組みを行っていく。
○「２自ら学びに向かう力を育む教育の推進」
「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」は、教職員に比べ保護者・生徒の割合は８割程度にとどまっている。。教職員はさらに生徒が主体的・対話的で深い学びに取り組む態度を育成するための仕掛けを展開していく。

（１）主体的に考え行動する力を育む教育の推進

３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進

学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりするこどもの育成に、取り組んでいると思いますか。（児童会・生徒会活動、学校のきまり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイストライ（中学校）など）

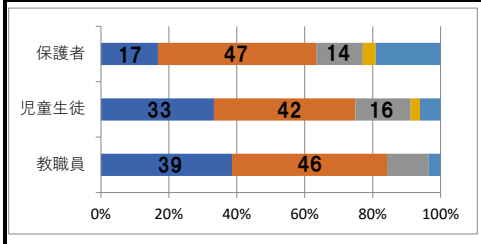


○「３社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者・教職員と生徒との差が大きい。現在、地域的行事や校則見直しなどは年度に１回、地域のボランティア活動をナイストライと並行して行っているが、現状として生徒会活動が校内だけにとどまっている。今後は、校外にも目を向けSDGsも意識していくとともに、総合的な学習の時間に地域人材を活用した授業を展開していくなどの取り組みを行っていく。

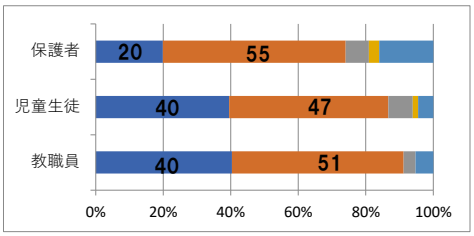
（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実

学校は、こどもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくりを行っていると思いますか。



学校は、こどもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。

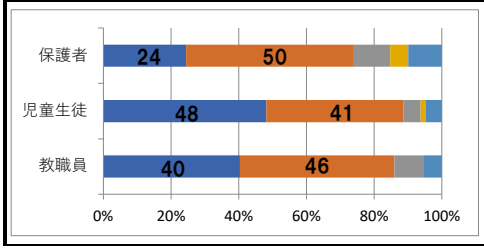


○「４５個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」
子どもが学習方法やペースを自分で選んだり決めたりする授業を学校が行っているかについては、生徒・保護者と教職員間で意識の差があり、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が7割かそれ以下である。一方対話的学習についても保護者は７割程度にとどまっている。このことから、今後学習のゴールを見据え、めあてを子どもたちから引き出すための仕掛けを各授業で行っていくとともに、保護者にも取り組んでいる授業を公開する機会の提供や見える化する取り組みを行っていく必要がある。

（２）こども一人一人を尊重した教育の推進

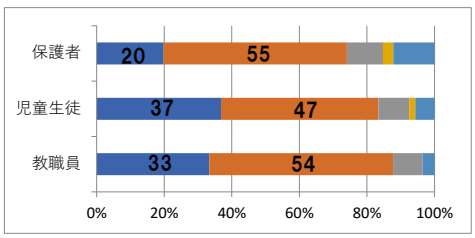
６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実

学校には、こどもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。



７インクルーシブ教育の推進

学校では、こどもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。

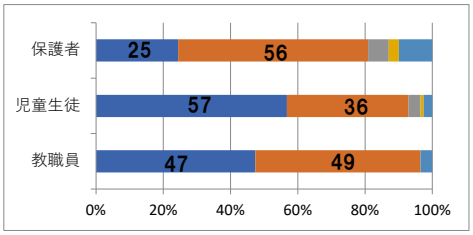


○「６特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実」
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が生徒・教職員の８割超に対して保護者の割合が低い。現在、定期的なアンケートや教育相談等を行い、子どものニーズに対応できるよう取組んでいる。また、特別支援教育コーディネーターや養護教諭、SCなど専門スタッフと連携しながら個別の対応も行っていく。
○「７インクルーシブ教育の推進」
学級活動等で心の教育を推進し、学校行事等で同じ目標に向かって互いの良さを生かしながら、行事で生徒を育てる取り組みを今後も継続していきたい。

（3）最適な教育環境の整備

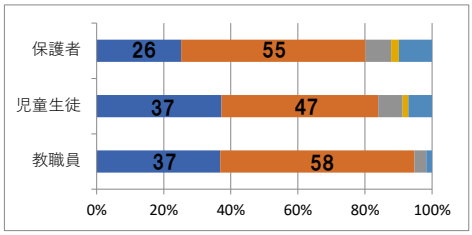
8 安全・安心な園づくりの推進

学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育（生活・交通・防災など）に取り組んでいると思いますか。



9 地域や家庭と連携した教育環境の整備

学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。

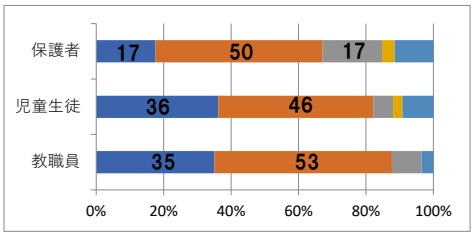


○「8 安全・安心な園づくりの推進」
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が保護者、生徒、教職員ともに8割を超えている。定期的な避難訓練や安全点検を実施することで、防災や施設・設備面に対する意識を高めさせていることが結果に繋がっているものと思われる。今後さらに安全への意識を高めていく。
○「9 地域や家庭と連携した教育環境の整備」
学級・学年だより、ホームページ等を通じて保護者や地域に情報発信とともに情報を得ながら連携を図っているほか、総合的な学習の時間を使い、授業や行事で地域人材を活用している。

（4）こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。



○「こどもの最善の利益を守る環境づくり」
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が保護者と生徒・教職員間でやや差がある。現在、定期的な教育相談やスクールカウンセラー等の活用を促すお知らせを積極的に行っているが、保護者への周知がまだ十分ではない。今後各種たより等でさらに紹介していく。生徒会による生徒総会や校則見直し等において、生徒同士の意見交換を今後さらに活発化し、より意見を聞く場面やその意見を反映させる場を設けていく。

来年度の具体的な取組について

○三観点（知識技能、思考判断、主体的に学習に取り組む態度）を意識した授業改善と主体的、対話的で深い学びを実現するためのめあて・対話・振り返りを盛り込んだ授業づくり。
○生徒指導の4機能（「自己存在感の感受」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場の提供」「安全・安心な風土の醸成」）を生かして、さらにこども一人一人の個性を尊重する学校教育（授業、行事、部活動等）を展開していく。
○生徒会活動を中心とした生徒が主体的に取り組む活動の充実
○地域とのつながりをより強化するための生徒の活動の充実（地域交流推進事業のさらなる充実や地域ボランティアの充実）や地域の人材を活用した総合的な学習の時間等の学習の充実。
○学校教育活動や生徒の活動についての保護者や地域への情報発信の充実。（学級・学年だより、HPのさらなる活用）
○生徒の意見や思いを反映できる教育相談体制の充実と家庭との連携。

小中学校関係者評価

○全体的に見て「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が高ほうであり、学校経営や学校全体としてはおおむね機能しているのではないかと推察できる。普段の西原中において、学級・学年だよりをはじめ、HPの「西原点描」「学校だより」「食育情報局」等の情報発信が奏功しているものと思われる。
○「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」のうち、学校が「こどもが学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学ぶ授業づくり」をしているかについての保護者の評価が低かったり、「こどもの最善の利益を守る環境づくり」への保護者の評価が低い。併せて、「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」についての生徒の評価が低い。このことからこどもがよりいきいきと主体的に活動できる場の設定や教材提供に努める。